

東京大学経済学創立百周年記念展示「東京大学経済学図書館の100年」展示品解説（後期）

著者	小島 浩之, 矢野 正隆, 森脇 優紀
発行年	2019-12-17
URL	http://hdl.handle.net/2261/00079027

「東京大学経済学図書館の 100 年」

展示品解説（後期）

東京大学経済学部創立百周年記念展示「東京大学経済学図書館の 100 年」のうち、展示替をおこなった「2. 経済学図書館 100 年の歴史とそのコレクション」についての解説です（2019 年 12 月 16 日～2020 年 2 月 1 日）。

のぶる 金井 延 日記【展示番号 2-2】

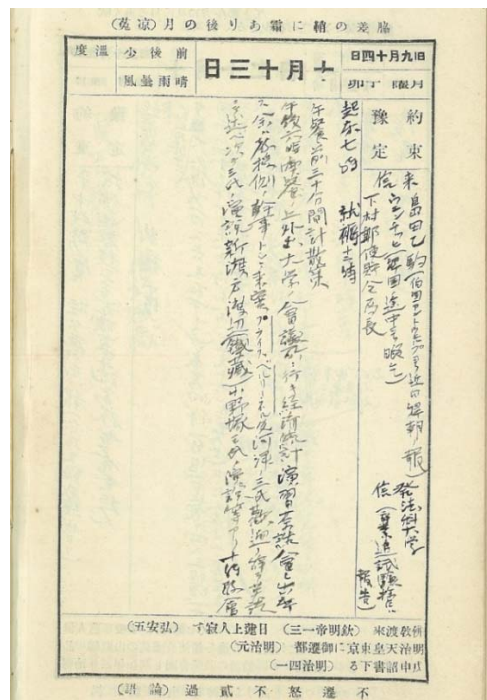
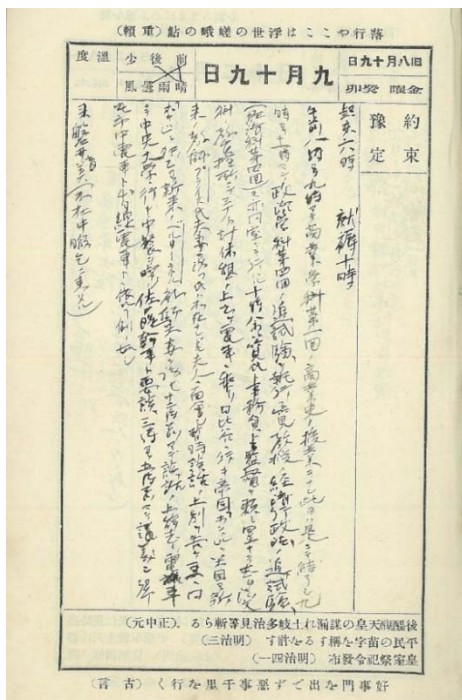
（大正 2 年 金井資料/4-5-13）

1913（大正 2）年、法科大学の経済統計研究室に、企業の営業報告書や定款などを収集する商業資料文庫が設置され、それまでの理論的研究に加えて、企業経済の実証的研究を促すこととなった。これより、経済統計研究室の図書部門は、1900 年のエンゲル文庫の購入によって整備された図書・雑誌を中心とする閲覧室と、商業資料文庫の両体制となった。以後、紆余曲折を経て、前者は経済学研究室→経済学部図書室→経済学部図書館→経済学図書館と変遷し、後者は経済学部資料室として現在に至っている。

この文庫を置くことを提唱したのは、設置の年に来日した外国人教師のジークフリート・ベルリネル（商業算術・国際金融論）であり、後に本学部初代学部長を務めた金井延の日記（1913 年 9 月 19 日条画像左）には、次のように、来日したてのベルリネル夫妻を帝国ホテルに訪問したことが記されている。

（前略）十時余ハ笈氏ト事務員トニ監督ヲ頼ミ置キテ去リ法文科ノ教官控所ニテ三十分計休憩ノ上出テ電車ニ乗り日比谷ニ行キ帝国「ホテル」ニ米国ヨリ新来ノ教師プライス氏夫妻ヲ訪フ、氏ハ不在ナレドモ夫人ニ面会シ暫時談話ノ上別ヲ告ケ更ニ同「ホテル」ニ独乙ヨリ新来ノベルリーネル教師夫妻ヲ訪ヒ十二時前マデ談話ノ上辞去ス（後略）

また、10 月 13 日の条（画像右）には、ベルリネルと入れ替わりでドイツに帰国途中のハインリッヒ・ヴェンティヒから来信があったことが記されている。



（小島 浩之）

東京帝國大學經濟學部便覽【展示番号 2-3】

東京帝國大學法科大学から經濟・商業二学科が分離し「經濟学部」として独立したのは、1919（大正8）年4月のことであった。その本拠となったのは、明治末年以降、外国人教師達の強い意向で導入・拡張されていた研究室であった。經濟学部には、經濟統計研究室と保險研究室があり、このうち前者が、のちの經濟学図書館になる（2-2 参照）。

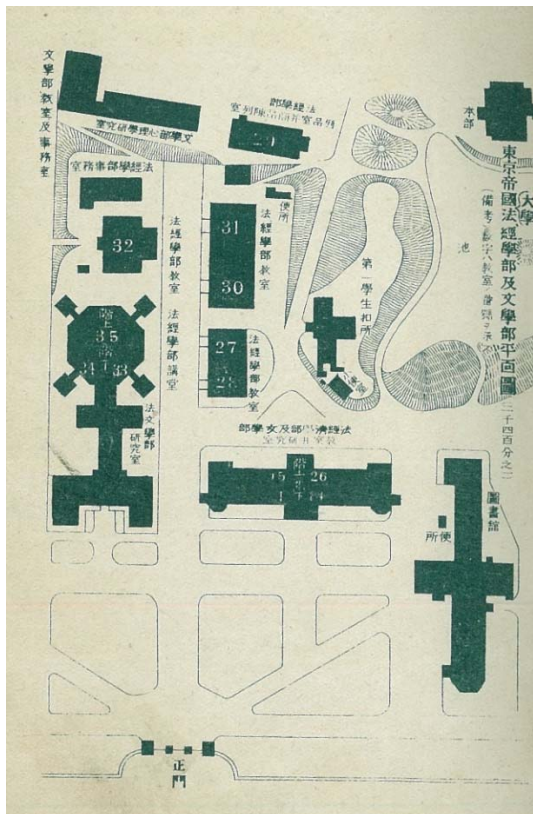
展示資料は、創立もない經濟学部の便覽（1919年9月刊）で、その冒頭に、「東京帝國大學法經學部及文學部平面圖」として、現在の正門から安田講堂、三四郎池、総合図書館に相当する学舎の配置が示されている（下左図）。この便覽の「研究室」の項（42-43頁）には、

經濟統計研究室及保險研究室ハ本館ノ階上ニアリ定期休業日ノ外ハ毎日午前九時ヨリ午後五時マテ之ヲ開ク学生ニシテ特ニ經濟統計及保險ノ研究ニ志アルモノハ書架ニ就キ自由ニ図書ヲ検索シテ閲覧スルコトヲ得

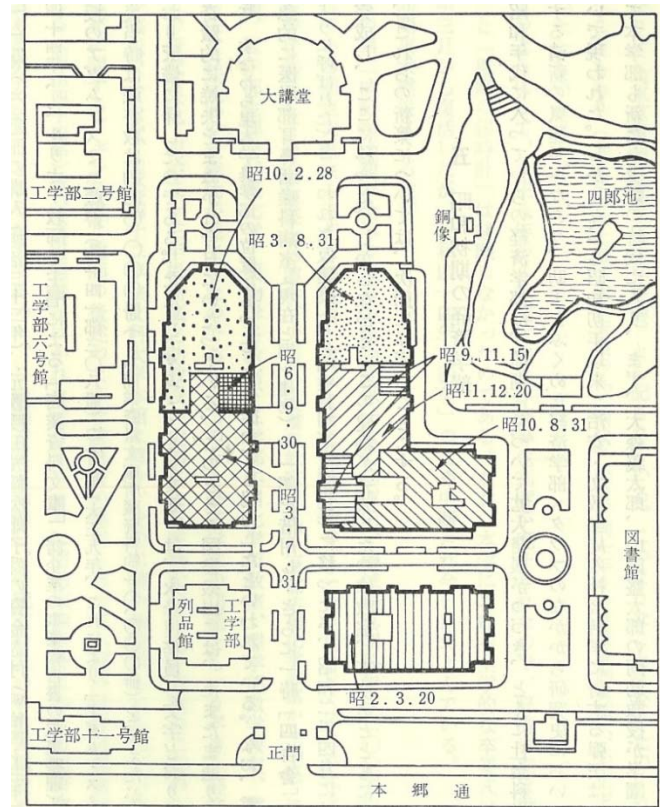
經濟統計研究室ニ附属セシムルニ商品室及商業資料文庫ヲ以テス広ク内外ノ商品、諸会社ノ定款決算報告書 營業報告書及各種ノ書式等ヲ蒐集シ以テ商業学ノ研究ニ資セシム

とあって、經濟統計研究室は、この平面図の中央にあたる「法經濟學部及文學部教室并研究室」の2階にあったことが分かる（現在の法文2号館の位置）。また、この項にみられる「商業資料文庫」が外国人教師ベルリネルの主唱で設置されたものであることは、2-2 で紹介した通りである。

その後、関東大震災（1923年9月1日）により、經濟学部の建物は全焼し、それまでに収集された図書や資料（約4万冊）も、アダム・スミス文庫などの一部を除き灰燼に帰した。震災の後、經濟統計研究室は經濟学部研究室と名称を変更し（1923年11月）、法・經両学部研究室（下右図、現在の法3号館の位置）の南側に置かれた（1927年4月）。以後、經濟学部における図書や資料の収集は、1965年に經濟学部の新棟（現在の赤門総合研究棟）が建設されるまでの約40年間、この正門前の建物においておこなわれることとなった。



震災前平面図



震災後平面図

(東京大学經濟学部編 1976, p.30)

(矢野 正隆)

1950年代の「アダム・スミス文庫」修復事業【展示番号 2-4】

(請求記号 アダムスミス:34, 71, 87, 108)

1955年から1957年にかけて実施された「アダム・スミス文庫」(「スミス文庫」)の修復事業は、経済学部100年の歴史を語る上で重要な出来事の一つである。

「スミス文庫」とは、アダム・スミス(Adam Smith, 1723-90)旧蔵書のうち約300冊からなるコレクションである。1920年に、当時ロンドン滞在中の新渡戸稲造が古書店(Dulau & Co.)のカタログで売りに出されているのを発見し、書店に赴いて購入(303冊)、その後、経済学部創設の記念として寄贈されたことに始まる。現在も旧蔵書の蒐集は継続しており、「スミス文庫」の総数は2019年12月までに315冊を数える。

経済学部の創設時の顔ともいえる「スミス文庫」は、1923年の関東大震災では、当時の職員や学生らの努力により焼失を免れ、第二次世界大戦中には、空襲を避けるため山梨県に疎開させたことで、喪失の危機からは救われた。しかし、救出の際の取り扱いや頻繁な移動、適切とは言えない保存環境などによって、「スミス文庫」は破損が酷く脆弱化しており、早急な修復が必要な状況となっていた。修復前の状態を記録したものが、展示の写真である。

1954年から、大河内一男教授(東京大学総長)や図書館員たちによって修復事業について検討が始められ、翌年1月18日より、製本家の服部政祐氏による修復作業が開始された。修復に際し、大河内教授は、「原型保持」(現在でいう「原型保存」)、つまり資料の原形・オリジナリティの保持を徹底するように指示をした。これは、当時としては先駆的な修復方針であった。この原則をできる限り守ろうとした服部氏の努力は、展示資料からもうかがえる。特に展示資料の背表紙(背)に注目すると、修復前に残っていた革は修復の際にもできる限り用いられていることが分かる。

その他にも、展示写真と見比べながら、現物資料の表紙の背側や表紙の角(小口側の角)にも着目すると、当時どのような修復が施されたのかがお分かりいただけるだろう。

なお、アダムスミス:71と108については、近年の資料の劣化状況から、更なる修復が必要となった。その際、オリジナルの背表紙に耐久性がなくなっていることから、オリジナルの表紙を再利用せず(本体に接合せず)に別置保存が適切と判断された。表紙と本体が別置保存されているのはそのためである。現在の修復・保存では、資料の状態に応じて別置保存を選択する場合もある。



アダム・スミス文庫(左・修復前、中・修復後、右・標題紙、いずれもアダムスミス:34)

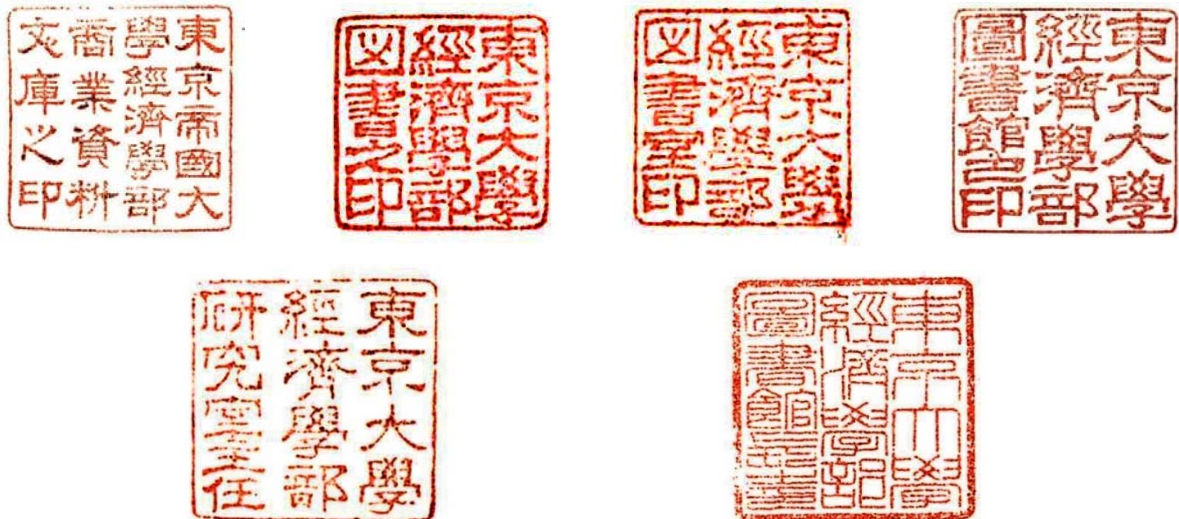
(森脇 優紀)

木製事務用品（目録カード整理用）【展示番号 2-5】

現在では図書館目録は概ね電子化されているが、1980年代以前はカード目録が一般的であった。展示品は、詳細は不明ながら目録カードを整理するための事務用品と考えられる。閲覧用の目録カードは、標準の大きさが縦75mm、横125mmとされており、上段の抽斗はこの大きさと合致する。一方、下段の抽斗は縦47mm、横122mmという標準より若干背の低いカードを入れる大きさに設計されている。これは明治期以来の一般的な事務用目録カードの大きさと一致する。上面には「大正十三年 第六号」と備品番号が焼印されている。なお、抽斗上段はアダム・スミス文庫の閲覧用カード、下段はエンゲル文庫の事務用目録カードである。関東大震災で経済統計研究室は全焼しエンゲル文庫も焼失したので、展示品の事務用図書カードは、焼け残った図書に挟まって奇跡的に今に伝わったものである。

経済学図書館旧公印とその印影【展示番号 2-6】

印影は、上段左より「東京帝國大學經濟學部商業資料文庫之印」（関東大震災後～1939年3月）、「東京大學經濟學部圖書之印」（使用時期不明）、「東京大學經濟學部圖書室印」（1970年頃～1982年10月）、「東京大學經濟學部圖書館之印」（1982年11月～2010年3月）、下段左より「東京大學經濟學部研究室主任」（1948年12月まで）、「東京大學經濟學部圖書館長之印」（1982年11月～2010年3月）である。



電話台【展示番号 2-7】

経済学部で電話台として使用されていたとされるもの。脚部は木製（栗材カ）で台座は大理石製である。脚の右上部に付けられた金属製の備品管理ラベルからは、年度が「昭1」、備品番号が「第11號」と読み、1926（昭和元）年に備品登録されたものであることがわかる。1923（大正12）年の関東大震災の火災によって建物はことごとく無くなった。新しい研究室の建物は、昭和2（1927）年3月に竣工するので、これに備えて用意された備品という可能性もある。なお、上部のダイヤル式黒電話は、実際に経済学図書館で使用されたものではない参考品（601-A形卓上電話機）である。

（小島 浩之）

参照文献

- 京都大学附属図書館（編）『京都大学附属図書館六十年史』1961
- 経済学部部局史編集委員会（編）『東京大学百年史 部局史1 経済学部』1986.12
- 東京大学経済学部（編）『東京大学経済学部五十年史』東京大学出版会 1976.3
- 森脇優紀・福田名津子校注、小島浩之解題「1950年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」校注
『東京大学経済学部資料室年報』9, pp.15-38, 2019.3

解説執筆：小島 浩之 矢野 正隆 森脇 優紀

発行日：2019年12月17日改訂版

編集：東京大学経済学部資料室 発行：東京大学経済学図書館

<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/> Instagram @utokyo_rhco